



# 広安里 第6号

発行 釜山日本人学校  
釜山広域市水営区民樂路 19 番道 11  
TEL 051-753-4166  
FAX 051-756-4851  
<http://user.chollian.net/~pusjpnsc>

第 1 回日韓多文化青少年芸術（音楽・壁画）  
フェスティバルを主催して

YK Steel Corp. 社長  
Koreja ロータリークラブ顧問

大道 英隆

去る 7 月 26 日から 28 日にかけて、下関市のご後援を頂き、下関維新ライオンズクラブと Koreja ロータリークラブの共催で、第 1 回日韓多文化青少年芸術（音楽・壁画）フェスティバルを開催しました。釜山からは子供 15 名を含む総勢 38 名が参加しました。「音楽は心に、壁画は目に永遠に残る」をキャッチフレーズとしました。

韓国には 158,169 人の日本人が住んでおり、このうち国際結婚をした日本女性は 10,152 人、日本男性は 1,010 人（2011 年末現在）で、ますます増加する傾向にあります。その子供たちが、Koreja ロータリークラブの支援で、ミニオーケストラを組成し、音楽を通じて母国日本と交流したことは素晴らしいことです。この子供たちが将来日韓の架け橋として大きな役割を果たすことを期待したいと思います。

7 月 27 日、下関市生涯学習プラザ（宙のホール）の会場は子供連れの下関市民で一杯となりました。最初に日本から、本村小学校による平家踊り、維新びよびよ隊による演奏・合奏がありました。その後 Koreja ロータリークラブオーケストラによる「You raise me up」、「canon」、「ふるさと」など 8 曲の演奏がありました。そして最後に会場のみんで「ふるさと」を立ち上がって力いっぱい歌いました。会場がまさにひとつになった瞬間でした。韓国から来た孫を見に鹿児島や各地から来た人たちも感動で涙を流していました。

2 年前から沙下警察署の 2 階を借りてイロハから練習をしてきた子供達が、その成果を出し堂々と演奏する真剣な姿を身近に見て、本当に感動しました。思えば 2 年前、小さい体で 2 時間のレッスンをがんばって受けていた 4 歳の女の子、将来お母さんの故郷日本に留学したいとの熱い思いを話していた中学生、勉強は韓国の子供に劣っても音楽で自信がついたと言っていた小学生の顔が走馬灯のように目に浮かんできました。

参加して頂いた下関市民の方々も多文化のかわいい子供たちの演奏を聞いて、改めて日韓はひとつの思いをきっと強くしたことでしょう。これこそ本当の「草の根日韓交流」だと私は感じ入ってしまいました。

また 7 月 28 日には、早鞆高等学校で釜山の芸術家南先生の指導の下、日韓の子供たちとともに、一生懸命壁画の製作を行いました。青い海のなかをクジラや魚が動き回るダイナミックな姿を描き切りました。この壁画は移動式なので早鞆高等学校ほか下関市のいろいろな所で、日韓の協力の象徴として展示されています。

数日の滞在でしたが、日韓の子供達の明るい笑顔を見て、日韓の心はひとつの思いを新たにしたい交流会でした。微力ではありますが、今後とも 2 回、3 回と積み上げていきたいと思えます。

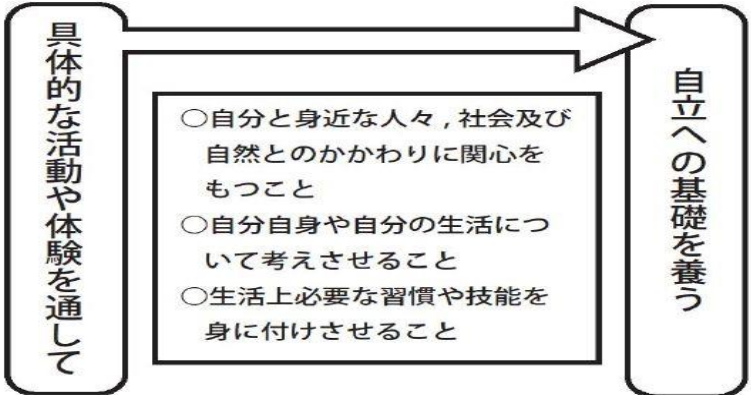
最後に中尾下関市長、加納下関維新ライオンズクラブ会長をはじめ皆様のご支援ご協力に心から感謝したいと思います。

# 生活科の学習について

## 教育目標

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

## 生活科の教科目標



## 具体的な活動・体験

### ①自然と身近な人々，社会及び自然とのかかわりに関心をもつこと

- ・学校探検…身近な人々とかかわることを通してよりよい生活ができるようになる。
- ・ペク山での自然観察，生き物や植物の世話…自然や生き物に親しみ，知的好奇心・探究心を高めることができる。

### ②自分自身や自分の生活について考えさせること

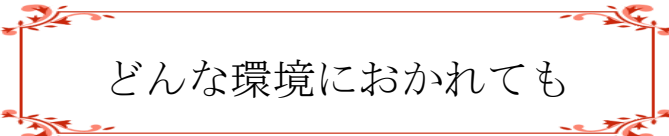
- ・秋祭り（秋の植物を使ってグループごとにお店を開く）  
…集団活動における成功感，成就感などから，仲間意識や帰属意識が育ち，共によりよい生活ができるようになる。  
集団の中の自分・友だちの存在に気づくことができる。

### ③生活上必要な習慣や技能を身に付けさせること

- ・砂遊び，おもちゃ作り…必要な道具を使って遊んだりものを作ったりして道具や用具の準備，片付け，整理整頓ができる。
- ・水辺公園での遊び…遊びのルールや公共の場所のマナーを守ることができる。安全への意識を高めることができる。

## ご家庭で取り組んでいただきたいこと

子どもの自立への基礎を養うため，自分の力でできることに取り組ませ，家族の一員としての役割を果たすことができるように，日頃から指導・支援していただきますようお願いいたします。

どんな環境におかれても

教諭 小倉 悠子

気づけば、12年。教員になってからの月日はあっという間に過ぎた。この中でたくさんの児童生徒に出会った。教諭という立場ではあるが、子どもたちと生活をともにするので、生徒の姿から学ぶことも多い。最近、ある一人の生徒のことを思い出した。

彼女は明るくて前向き、心のあたたかい、誰からも好かれる生徒だった。勉強にも絶対に手を抜かない。みんなより抜きんでて成績が良いわけではないが、常に目標を決め、小テストであれ定期テストであれ、学習に取り組んでいた。部活動でも部長として、チームを励まし、まとめ上げた。行事の実行委員や学級での係の仕事も進んで行った。誰かの表情が暗ければ、声をかけ相談にのり、誰からも信頼されていた。おっちょこちょいな面もあり、失敗するとニコッと笑う顔に愛嬌があった。大きな悩みもなく、とても満たされ幸せなのだろうと思っていた。

しかし、学校生活の中で、いつも明るい彼女が、ときどき暗い表情を浮かべていることに気づいた。声をかけると、「先生、大丈夫やで。」という返事。何か辛いことでもあるのだろうかと思ったが、自分で解決できるならと見守った。

中学3年生の11月、彼女は学校に化粧をして登校した。今までになかったことだった。「どうしたん。」と声をかけると、「別に。」と目も合わさずの返答。手をつかむとぼろぼろ涙を流し始めた。その日から少しずつ話をするようになった。

父親と母親が毎日のように離婚の話をし、けんかしていること。小学校の高学年のときからそんなことが続いていること。その中でとても進路の話などできないこと。

行きたい学校をひたすら目指し、学習に取り組んできたが、合格ラインには届いておらず、11月には、中学校卒業後の進路を決定しなければならない。もし父親と母親が離婚でもすれば、高校卒業後に夢見ている美容学校への進学も叶わなくなる。「ちゃんと家の人と相談して、進路を決定しなさいよ。懇談に来てから、どうしようか、では困るで。」そんな言葉を私は、簡単に言っていたが、その言葉が彼女に重くのしかかっていたことに気づいたのは、このときだった。「しまった。」と思った。

この日を境に、彼女は今まで抱えていたことを涙を流しながらも、話せるようになっていった。勇気を出して両親とも話し合った。進路決定まで、話し合いは難航したが、彼女は少しずつ元気を取り戻していった。12月の始めのある日、彼女が晴れ晴れとした顔で、私のところへ駆け寄ってきて言った。「うちやっぱ美容師になりたいねん。だから、決めた。家のこともまだまだ色々あるけど、もう迷わへん。」進路希望調査を差し出したときの笑顔が今でも忘れられない。何ともすっきりとした誇らしげな表情だった。

彼女との出会いを通して、自分の甘えに気づいた。何かが上手くいかないとき、知らず知らずの間に、何か理由をつけて、努力できなかった自分を肯定してきたのではないか。環境や状況を言い訳にして、叶わなかったことを「仕方がなかった」と肯定する方が簡単だったからだ。「もっと努力できたのでは」と自分に対して問うことを忘れてはいけないと感じた。彼女は、自分が引き起こしたことではないが、それに立ち向かって行かなければならなかった。しかし、そこから逃げることなく、悩んで、泣いて、ときにはその状況を笑い飛ばし、見事にそれを乗り越えた。その強さに感銘を受けた。

最近、元同僚からメールをもらった。「この間、駅前の美容室行ったら、〇〇さんがいて、シャンプーしてくれましたよ。」

夢を叶えたのだ。教え子が夢を実現させる。教師として、これに勝る喜びはない。